

競争入札心得

1 入札

- (1) 入札参加者は、仕様書等を熟知のうえ、入札しなければならない。
- (2) 入札書は、所定の様式（入札説明会時にも配布いたします。）に必要な事項を記載し、記名押印のうえ、所定の入札箱に投入しなければならない。
- (3) 代理人が入札に参加するときは、入札前に、委任状に必要な事項を記載し、記名押印のうえ提出しなければならない。
- (4) 委任状のない入札は、無効となる。
- (5) 委任状には、法人代表者の印（使用印鑑届を提出した場合はその印）と代理人の印を押印し、入札書には、委任状に押印した代理人の印と同一の印を使用しなければならない。
- (6) 入札参加者又は入札参加者の代理人は、当該入札について他の入札参加者の代理をすることはできない。
- (7) 入札者は、その提出した入札書の書換え、引換え又は撤回をすることができない。
- (8) 入札参加者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和 22 年法律第 54 号）等に抵触する行為を行ってはならない。
- (9) 入札書には、自己の見積もった金額の 110 分の 100 に相当する金額を記載する。この金額に 100 分の 10 に相当する金額を加算した金額（この金額に 1 円未満の端数が生じたときは、その端数金額を切り捨てる）が契約金額となります。
- (10) 入札金額の記載は、アラビア数字を用い、その頭部には「¥」マークを記載する。
- (11) 入札参加者が所定の時刻に遅れたときは、入札を認めない。ただし、他の入札参加者の投入が始まるまでの間は、この限りではない。

2 公正な入札の確保

- (1) 入札参加者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和 22 年法律第 54 号）等 に抵触する行為を行ってはならない。
- (2) 入札参加者は、入札に当たっては、競争を制限する目的で他の入札参加者と入札価格又は入札意思についていかなる相談も行わず、独自に入札価格を定めなければならない。
- (3) 入札参加者は、落札者の決定前に、他の入札参加者に対して入札価格を意図的に開示してはならない。

3 無効の入札

次の各号のいずれかに該当する入札は、無効とする。

- (1) 入札に参加する資格のない者がした入札
- (2) 委任状を持参しない代理人のした入札

- (3)同一事項について、2 通以上の入札書が提出された入札
- (4)入札者が他の者の代理を兼ね、又は代理人が 2 人以上の代理をしてなした入札
- (5)連合その他不正行為によってなされたと認められる入札
- (6)入札書の表記金額を訂正した入札又は¥マークの記載がない入札
- (7)入札書に記名押印を欠いた入札
- (8)誤字、脱字等により意思表示が不明瞭で判読できない入札
- (9)入札書の日付を欠いた入札又は入札の年月日と合わない入札
- (10)鉛筆等容易に消去可能な筆記用具を使用した入札
- (11)再度入札（2 回目・3 回目の入札）の前の入札に不参加の者がした入札
- (12)郵送による入札
- (13)落札の件数制限に違反した入札
- (14)住所、商号若しくは代表者名又は届出印と異なる内容が記載又は押印された入札
- (15)その他入札に関する条件に違反した入札

4 落札者の決定

入札を行った者のうち、予定価格の範囲内で最低の価格をもって入札した者を落札者とする。ただし、落札者となるべき者の入札価格によってはその者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不適当であると認められるときは、その他の者を落札者としてすることができる。

- (1) あらかじめ最低制限価格を設けた場合は、予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって入札した者を落札者とせず、予定価格の制限の範囲内の価格で最低制限価格以上の価格をもって入札した者のうち最低の価格をもって入札した者を落札者とする。
- (2) 入札執行回数は、3 回までとする。

5 同価格の入札者が 2 人以上ある場合の落札者の決定

落札となるべき同価格の入札をした者が 2 人以上あるときは、直ちに、当該入札をした者にくじを引かせて落札者を決定する。この場合、入札者はくじを引くことを辞退することはできない。当該入札をした者のうち、くじを引かない者がいるときは、これに代わって入札事務に関係のない職員にくじを引かせる。

6 入札の取りやめ等

入札参加者が連合し、又は不穩の行為をなす等の場合において、入札を公正に執行するこ

とができないと認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、又は入札を延期し、若しくは取りやめることがある。

7 入札の辞退

入札をしようとする者は、入札書を投入提出するまではいつでも入札を辞退することができる。入札を辞退した者は、辞退することにより以後の入札について不利益を被ることはない。

8 契約内容

落札者は、提示した契約書の内容で契約することを条件とする。

9 異議の申立て

入札参加者は、入札後、この心得、仕様書及び契約書案等についての不明を理由として異議を申し立てることはできない。